

平成29年度
京都教育大学附属高等学校
自己評価実施結果報告書

1. 本校の基本情報

- (1) 学校名 京都教育大学附属高等学校
- (2) 所在地 京都市伏見区深草越後屋敷町 111
- (3) 生徒数 585人（男子280人、女子305人）、15学級（1学年5学級）
- (4) 教職員数
校長（併任）、副校長1、主幹教諭1、教諭33（うち任期付教諭3）、養護教諭1、
非常勤講師10、ALT1、事務職員3（専任1、事務補佐員2）、非常勤用務員1

2. 本校の教育目標

未来を拓く確かな学力の保障と豊かな人間性の形成

3. 京都教育大学附属学校園の目的

教育の実験、実証並びに実習の機関として、本学に附属学校（幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校）を置く。（本学学則第56条）

本学附属学校は、児童、生徒又は幼児に対して、学校教育法の定めるところにより、教育又は保育を行うとともに、本学における児童、生徒又は幼児の教育又は保育に関する研究に協力し、本学の計画に従い、学生の教育実習の実施に当たることを目的とする。（附属学校規定第2条）

4. 本校の学校教育計画（年度重点目標）

- (1) 教科指導を充実させ生徒の学力の向上につとめる。
- (2) 進路指導を充実させる。
- (3) 自律的・自立的かつ人権意識の高い生徒を育成する。
- (4) 今日の教育課題に則した教育研究を推進し、その成果を還元する。
- (5) 教育活動の情報発信を充実させる。
- (6) 安心・安全な教育環境の保障と整備を行う。

5. 附属学校園の機能向上に関する取り組み

- (1) 教育実習の指導のより一層の充実及び教育実習の改善を図る。
- (2) 大学の方針に基づく教員養成及び実践的教育研究に協力する。
- (3) 地域の教育力向上への貢献及び教育研究活動の公表を図る。

6. 本校の特色

本校は創立当時から、自主自律の精神を重んじ、高い知性・健康な身体・豊かな情操の調和した人間形成に努め、生徒の能力・適性・進路などに応じた教育を進めています。

平成14年度から文部科学省の「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」の研究開発校として第1期から現在第4期まで連続して指定を受け、科学技術人材の育成に努めています。また、平成28年度から文部科学省の「スーパーグローバルハイスクール(SGH)アソシエイト」に位置づけられ、本学の「グローバル人材育成プログラム」事業と共に、グローバルリーダーに必要な能力の育成にも取り組んでいます。

自己評価
A 高いレベルで達成できた
B 達成できた
C 一部達成できなかった
D ほとんど達成できなかった

①教育活動その他の学校運営に関する事項(学校教育法に基づく評価)

本年度の重点目標	具体的な取り組み内容	自己点検評価	自己評価区分	学校関係者評価	改善策
(1) 教科指導の充実と生徒の学力の向上	①生徒の学習習慣を形成し学力の向上をはかる。 ②大学受験にも対応した授業や補習を行う。	*	*	*	*
(2) 進路指導の充実	①3年間を見通した計画的な進路指導を行う。 ②進路ガイダンス、進路ホームルームや個人面談を通じて生徒の進路実現を支援する。	*	*	*	*
(3) 自律的・自立的かつ人権意識の高い生徒の育成	①生活時間の管理、身のまわりの環境整備、マナーの向上など生徒の基本的な生活習慣を確立する。 ②生徒の自主的な活動を尊重し、自らの判断で適切な行動を取ることができる生徒を育成する。 ③行事を通じて生徒の人権意識を向上させる。	*	*	*	*
(4) 今日の教育課題に則した教育研究の推進と成果の還元	SSH、SGH-A、グローバル人材育成プログラム、外国語教育強化拠点事業の教育研究を推進し、成果を還元する。	*	*	*	*
(5) 情報発信の充実	①生徒保護者への情報提供に努める。 ②中学生、教育関係者への情報提供に努め、広報活動を充実させる。	*	*	*	*
(6) 安心・安全な教育環境の保障と整備	①樹木の管理、害虫駆除、校舎内の環境整備をより充実させる。 ②グラウンド等の教育環境を整備する。	*	*	*	*

自己評価
A 高いレベルで達成できた
B 達成できた
C 一部達成できなかった
D ほとんど達成できなかった

②附属学校園の機能向上に関する事項

本年度の重点目標	具体的な取り組み内容	自己点検評価	自己評価区分	学校関係者評価	改善策
教育実習の指導のより一層の充実及び教育実習の改善(中期計画35)	大学の実地教育運営委員会と協働し、教育実習指導や実習評価の改善に取り組む。	*	*	*	*
大学の方針に基づく教員養成及び実践的教育研究に協力する。(中期計画36)	・大学の「グローバル人材育成プログラム」事業に協力し、附属学校においてカリキュラムの試行や授業実践を行う。 ・大学教員、附属学校園の教員と共同して「外国語教育強化地域拠点事業」に取り組む。 ・SSH、SGH-Aの研究開発を大学と連携して取り組む。	*	*	*	*
地域の教育力向上への貢献及び教育研究活動の公表を図る。(中期計画37)	・本学附属教育実践センター機構との共催、京都府・京都市教育委員会の後援により、研究発表会を開催する。 ・教育委員会その他学校関係者の学校訪問を積極的に受け入れる。	*	*	*	*

*印の欄は、年度末に掲載予定。

平成29年度 学校評価 年間計画

京都教育大学附属高等学校

時期	評価の検討と実施等
平成29年 3月	平成28年度自己評価実施、学校評価結果及び改善策取りまとめ
4月	「平成29年度教育目標と今年度の具体的な取り組み」策定並びに保護者・生徒配布周知
5月	平成29年度学校教育評価項目、平成29年度学校評価年間計画の学長への報告 学校評価項目等ホームページ掲載
6月	学校評議員の確定
7月	
8月	
9月	第1回学校評議委員会
10月	
11月	研究会発表会参加者アンケート実施
12月	保護者アンケート・生徒授業アンケート・教員評価アンケート実施
平成30年 1月	
2月	「平成29年度教育目標と今年度の具体的な取り組み」自己評価作成
3月	第2回学校評議委員会実施 学校自己評価実施、学校評価結果及び改善策取りまとめ
4月	平成30年度学校評価結果及び改善策、平成を保護者へ周知 「平成30年度教育目標と今年度の具体的な取り組み」策定並びに保護者・生徒配布周知
5月	平成29年度評価結果及び改善策、平成30年度学校教育評価項目、平成30年度学校評価年間計画の学長への報告 学校評価項目等ホームページ掲載